

湘南学園だより

No.97

発行
湘南学園
だより部
編集

感性

湘南学園理事長 園田 貞美



長い夏休みが終わり新たな気持ちで学園生活がスタートしました。秋に向かって落ち着いた季節になり、この季節を新学年のスタートにしている国があることはうなずけます。この時期、学園生の一人ひとりには充実した日々を送ってもらいたいと思います。

近年、学園の応募者数が増加していることは喜ばしいことです。もちろん校舎の効果は大きいのですが、学園を訪れた皆さんが校舎同様に学園生の明るく生き生きとした姿、そして学園関係者の対応が大きく貢献していると感しています。

また、この春法人として小中の新入生の保護者と高校卒業生の保護者の皆様にアンケートを取らせていただきました。大変率直なご

意見をいただき、今後の学園運営の参考にさせていただける貴重なものがあり感謝しております。アンケートの中から、学園の魅力として湘南の環境、学園の明るい雰囲気、そして男女共学があげられます。個人的には保護者の方が熱心に学園のことを語り、自由に何でもいえる雰囲気ですばらしいと感じています。この雰囲気は学園の発展に欠かせない原動力であり、よりよい教育環境を育てるためには皆様に大いに語っていただきたいと思えます。企業でもよりよい製品を提供するためには、顧客満足度を高めることが求められます。教育を聖域の場のように考えることは狭い世界に入りがちです。どのような場面でもおかしいことは

おかしいといい、組織が発展するためには問題を先送りにせず、正面からぶつかることとタイムリーな決断が求められます。そこには皆様一人ひとりのはっきりした意思表明と協力が必要です。

最近、都会に於ては、一人ひとりがいろいろな面で無関心を装うことが多くなっています。なぜ無関心になるか色々な要因が考えられますが、ある方は日本人の距離感が麻痺してきたように言っております。この距離間という考えは、物理的なものでは人とぶつかることに違和感がなくなり、ぶつかっても無関心のようなです。精神的にはよりよいコミュニケーションが取れないことになりました。このことは、感性が衰えているのではないかと感じています。

日本は豊かになっており、若者の感性は世界で活躍しています。特に音楽やファッションは群を抜いています。また、社会の平和と安定によって、日本の若者の感性の豊かさは公平な国際試合のスポーツ観戦態度にも現れているといわれます。しかし、一部に何かが壊れていることもあるようです。私は学生のころ「感性を磨け」と

言われワクワクしたものです。デザインを仕事とする道を選んだためか、この言葉は強烈に響いています。はじめは、感性を磨くとは美しいものに接し、色合い、バランスなど姿かたちを見ることでした。その後、音楽、言葉、考え方、生き方の内面へと楽しみを増しました。その反面、美しいものとは言いがたいものにも接しがつかり、怒り、落ち込むことも多く味わっています。

頭の中で考えるのではなく、このろの中にある感性はすばらしいものであり、決して芸術家やデザイナー、若者の特権でなく人と接するときにも大切であり、あらゆることにおいて感性を磨くことは一日一日を楽しむ糧にもなると感じています。

昔の学園を知る初老の方から、昔から学園の子どもたちはのびのびしている雰囲気があった。それは家庭の温かさから来ていると思っている、との言葉を聴きました。時代は変化していますが、学園の中にはこのような雰囲気根づいて伝統になっているようです。マニュアルに頼る行動や考えではなく、感性を磨く教育を育てていけばと感じています。

『神奈川県研究協議会に参加して』

幼稚園保育主任 青木萬里子

ここ数年来、「どのような遊びが育っているか」をテーマにして園内研修を重ねています。この中で、教員のいる意味は何か、またどのような環境を整えているのか、子ども

の姿から読みとれることは何か、などの視点を持って各学期が終了すると記録を持ち寄り、学年毎に資料を作ります。この資料を基に、意見、感想を出し合い、あらゆる角度から考察を重ねることで、一人ひとりの育ちや持ち味の良さが見えてきます。また、遊びの質を高める手だてなどを学び、教員として子どもを理解する力を養っています。

湘南学園の幼児教育は、身も心も解放された遊びや生活をとおして生きる力を育み、その中で人と人との関わりから学び合うことを最も大切にしています。クラスの友達同士はもちろんのこと、クラス

境が整っているか、そのための適切な指導がなされているかなどを、教員全員が掌握していくことが何よりも大切です。

今年三月に、神奈川県から『十七年度幼稚園教育課程神奈川県研究協議会』で実践報告の提案園になつて欲しい、という依頼がありました。C分科会のテーマは『感じたこと考えたことを音や動きなどで表現したり、自由に描いたり作ったりするようになるためにはどのような物的、空間的環境の構成が必要か』というものでした。人的環境、物的、空間的環境については日頃から学園の幼児教育を

考える上で大切なこととして取り組んでいるので、大いに勉強になると考え引き受けることにしました。資料づくりに当たっては、昨年度までの園内研修の資料に新たな分析と考察を加え、全員で『教育課程研究協議会』に臨みました。

七月二十八日(一日目)は全体会において講演『これからの幼児教育を考える』へ講演者・白梅学

園短期大学学長・無藤隆氏」と、公立、私立の四つの幼稚園から提案報告がなされました。

七月二十九日(二日目)は分科会毎に分かれ、七、八人のバズデイスカッションが行われました。各グループでは湘南学園の提案と報告にそつた質問や意見はもとより、学園の幼児教育内容、環境、教員間の連携などが話題になりました。その中で、多くの先生方から、いつでも好きな時に、自由に、好きな物を作ることができるコーナーが各部屋にあり、そこには空箱、空容器、セロテープ、ガムテープ、折り紙等々が豊富に備えられている環境を大変羨ましがられました。また、遊びを中心にした幼児教育ができることに対する評価もされました。さらに、各幼稚園の実情や悩みなどの情報交換の場ともなりました。

湘南学園幼稚園で働いていることが楽しく語れたこと、今回の研究協議会に参加したことが嬉しく、また自信となったというものでした。

今回の研究協議会で、子どもたちを主体にした幼児教育がされていること、園内研修を積み重ねていること、教員のチームワークの良さなどを評価していただきました。その中でも「湘南学園の先生方はみなさん楽しんで保育をしているのが伝わります」と褒めていただいたことは何よりも嬉しいことでした。

園内研修で学び合っていることやこの夏の研究協議会でそれぞれが学んだことを生かし、一人ひとりの子どものつばやきをしっかりと受け止め、子ども同士が学び合える環境づくりがなされているか見極めていくと同時に、『子どもから教わる』という謙虚さを持つて今後も幼児教育に取り組んでいきます。



野外体験教室

小学校教務主任 林田英一郎

小学校では、七月に三年から五年の三学年で野外体験教室を実施しました。

子どもたちにとっては初めての宿泊行事となる三年生の野外体験教室は、七月一日(金)・二日(土)の一泊二日。これまでは鎌倉で実施していたのですが、今年度からは三浦半島の油壺での活動となりました。

当日は昼前からあいにくの雨となっていました。保護者の方々のご協力もあって磯の生物の採取や観察をおこなうことができました。夜には二人一組のパデイで懐中電灯をもって、宿舎前の小さな浜に下りていくナイトウォークを実施し、夜の磯の生物を観察することもできました。翌日は午前中に海藻を使った葉書づくりを体験しました。できあがった葉書は、宿舎から家族や親戚に送られました。



天候の影響で十分な活動はできませんでしたが、子どもたちも係

分担当をしながら積極的に行動し、同じ海辺ではありながらも江の島周辺とは異なる環境で、楽しい思い出を作れたことと思います。

この一泊二日の体験は、二学期以降のクラスづくりや、海をテーマとした総合学習の取り組みにきつと生かされてくることでしょう。

四年生は、終業式の翌日、七月十六日(土)からの二泊三日を山梨県の中富町で過ごしました。三年生よりも一泊増えて、海から離れての遠方での活動です。宿舎は県立の地域密着型の施設で、豊かな自然環境のもと、ゆったりとした時間を過ごしてきました。



滞在期間中は天候にも恵まれ、豆腐づくり体験やグループ別の体験学習、絵図ハイイクやキャンプファイヤーなど、予定通りのプログラムを実施することができました。

絵図ハイイクは、施設のある平須地区を活動のフィールドとして、自分たちの進むコースを配られた絵図から正しく読みとって歩いていくハイキングです。いくつかのチェックポイントには教員が配置

されていますが、それらのチェックポイントの間を子どもたちのグループだけで、絵図を頼りに考えながらゴールを目指して行動していきます。絵図ハイイク全行程の目安を二時間弱としているので、四年生の子どもたちにとってはハイキングというよりも、ちょっととした冒険気分です。こうした活動の中で、子どもたちはチームワークを学び、相互の信頼関係を深めていくことができます。

五年生は終業式から一日おいた七月十七日(日)から、四年生と同じく二泊三日で山梨県の西湖周辺を中心として活動しました。西湖周辺に活動拠点を移して二年目となる今年度は、新たにカヌー体験にチャレンジしました。

カヌーは宿舎の正面の浜から漕ぎ出します。クラス毎のローテーションで、午前中には三クラスとも終了するようにプログラムが組まれました。これは、午前中の西湖の湖面が穏やかなうちにカヌー体験を実施するためです。三年生と同様に事前にパデイを組んでいる五年生の子どもたちは、ライフジャケットを着用しパドルを手に取り二人一組で次々にカヌーに乗り組めます。

インストラクターから話は聞いていたものの、それぞれにスピードの違いがあったり、上手に方向

をコントロールできなかつたりして、子どもたちのカヌーは広い湖面にどんどん揺がっています。インストラクターの方々のカヌーやカヤックはそれらの間をまわりながら、子どもたちにはアドバイスをしています。



湖畔から眺めるのとは違った、湖面からの眺めは子どもたちには新鮮な体験だったことでしょう。最初はカヌーを進めるのに悪戦苦闘していた子どもたちも、最後の方ではとても楽しそうな顔を見せてくれました。およそ一時間半のカヌー体験は、あつという間に過ぎていつてしまいました。

その他にもハイキングやキャンプファイヤー、飯盒炊飯や酪農体験など、二泊三日の行程で盛りだくさんの体験をさせていただきました。

子どもたちは、これらの野外体験教室で普段の学校生活の中では得られない経験をさせていただきました。これらの活動の成果を踏まえて、次年度以降の野外体験教室をより豊かなものにしていきたいと感じています。

“Nothing is impossible. Never give up.”

を教えた生徒達

中高生徒会主任 荒木 伸浩

「中学男子騎馬戦は援軍形式にしよう。競技名は『駆けつける！戦国騎馬戦！』」

「高校は『君に捧げるラストサムライ』だ！これってしげれない!?!」

「ん〜。それじゃ、中学女子竹引きは『ブライド女祭りミドル級』で、高校は『ヘビー級』ってのはどう？」

「中学生はクラスみんなが団結してやれる種目を入れよう。大縄跳びなら体育祭前からクラス毎に練習しながら取り組めるよ」

「中1の玉入れは発想を逆転させて、『入れさせない玉入れ』ってのはどうか？」

「単なる綱引きじゃなくて、必死に頑張っている女子を男子がさっそうと救うっていうコンセプトで競技方法を具体化しよう〜」

これは、4月に行った生徒会合宿で体育祭について話し合う生徒達の議論のほんの一部だ。彼らが大学を卒業して社会に出たら、新しい製品を開発し、そのネーミングから販売方法に至る様々なことを考える場面に直面することになるだろう。その際にはきつと、これまでの既成概念を払拭し柔ら

い頭を寄せ合いながら仕事を進める能力が要求される。自分が所属するプロジェクトチームの企画を重役達の前でプレゼンテーションする。これは、もはや企業に限らず官公庁においても見られる光景だ。

社会は、こうしたことが出来るクリエティブな人材を大学に求め始めている。それに伴って、大学も高校に対して、こうした能力を育成出来る学習に取り組める生徒を益々求めてくるようになるだろう。

生徒会合宿では、こんな社会の動向についても少し生徒達に投げかけながら議論を進めた。彼らの極めて積極的な白熱した議論は、夜遅くなっても延々と続いた。

2年ぶりの体育祭実施に向けた準備が急ピッチで進められていた頃、生徒達にとっては絶対に譲れない問題があった。Tシャツの着用だ。

これは、従来の応援団やチャガールという特定の生徒達が着ていた高価なものではなく、『参加する全ての生徒達が疎外感なくみんなですべての新体育祭』を展望した時に出てきたアイデアであった。ハチマキ代わりに色全体の団結力を深められる安価なTシャツをみんなを着ようというコンセプトだ。

しかし、新しいことをやろうとすると必ず大きな壁が立ちちはだかるのが世の常。残念ながらこの企画にはOKは下らなかった。そして、GW直前に『TシャツはNo』の決定が生徒の代表に伝えられた。これが最後通告であったはずなのに、が…。つまり、「残念ですが…、分かりました。今年はTシャツはあきらめてハチマキでやります。」とはならなかったのである。

GW中に生徒達は二度にわたって緊急リーダー会議を開き、現状を分析し知恵を寄せ合って、『Tシャツ問題再審議要望書』なるものを作り上げた。そして、ついには彼らのこうした自治活動が、その状況を見た先生方の気持ちを変化させ、教員会議で一度出された決定を覆すことになったのである。

“Nothing is impossible. Never give up.”
（「不可能なことなんかないさ。あきらめちゃダメだ」）生徒達は、このことを実際の行動によって見事に教えてくれた。

体育祭の1週間前であったか、「先生、長縄跳びの朝練やってもいいですか？」こう尋ねてきたのは中3の子ども達だった。この質問を聞いた時、「新体育祭は、本当に『みんなですべて』というコンセプトを実現出来るかも知れない！」と確信出来た。そして、すぐくハッピーな気分になった。その日以降、朝・昼・放課後にと、

ドライエリアでは仲良く長縄跳びに取り組み元気の中学生達の姿が毎日見られた。

5月19日。

雨で予備日での実施をも危ぶまれていた体育祭は、2日前の天気予報を180度覆す晴天のもとに2年ぶりに行われた。グラウンドいっぱいには生徒達のはじけるエネルギーが満ちていた。エンディングセレモニーでは高2のリーダー達の目には涙がいっぱいあふれた。

そして、最後に彼らの口から「実行委員のみんな、そして、先生方、本当に有り難うございました！」という言葉が飛び出した。『本当に有り難う！』というこの言葉は、逆に僕ら大人達が生徒達に大声で叫びたい言葉だった。

『シマジロウ』の母親子育て教室や小中高生の通信添削とか大学受験模擬試験で有名なベネッセコーポレーションが、興味深い分析結果を公表している。その中で、これから伸びる高校の条件の1つに『生徒の自治活動が盛んな学校であること』をあげている。この分析はまんざらウソではないかも知れない。



今年度、実施された 特活実践と これからの活動

教務委員会・特活係

中1 テーマ「うまれてよかった」

★GWをはさんで、課題作文「赤ちゃんが生まれたときのこと」・「自分ってこんな人」を作成

★車椅子・アイマスクをつけたの体験学習と、NPO法人あにみ〃服部一浩氏の講演会を実施

(5月13日(金)終日・①⑤⑥ホール)

★秋以降に、「ハンディキャップをもちながらも、輝いて生きる人との出会い」を計画。この後、

特活まとめの学年発表会を行う予定。

中2 テーマ「発見！地元・湘南」

★GWは第2の地元になるか?!

★FW先の決定に向けて、特活委員が資料を作成し、クラスごとに訪問地域の特徴を説明(6月中旬)

★各クラスごとにフィールドワーク(7月12日(火)終日)

*A組(長後・高倉地域)

藤沢で農業を支える人々
*B組(二ノ宮・平塚地域)
湘南の食を支える人々
*C組(鎌倉駅周辺地域)
鎌倉 再発見!

*D組(片瀬西浜・江ノ水周辺)
湘南の海を守る人々

*E組(江の島島内)
江の島 再発見!

★学年発表会「湘南Eフォーラム」を実施(7月15日(金)④⑤⑥)



湘南そだち直売センター

中3 目標「地域の取り組みから、地域の文化を総体的に認識する」

★GW中の課題として、「東京」に関する文化、または問題点を調べてのレポート作成。

★新たに特活データ・インフォメーション資料室部員を募集

★各クラスFWにむけ、32のテーマのなかから選択。テーマは、

*介護福祉行政について
*〇〇規制と京都議定書の実施
*伝統工芸とものづくり
*下町を中心とした伝統商店街
*バリアフリー・ユニバーサルデザインによる、共生のまちづくり

*文化センター・スポーツ施設の活動……など

★東京の文化と歴史に関する講演会(6月13日(月))

★東京フィールドワーク

今年度の訪問先は、文京・品川・大田・狛江の各地域。生徒は32テーマから一つを選択して、そのテーマにもとづきFW先を決定したので、合計37班が分かれて活動した。(7月12日(火)終日)

★9月に地区ごとの発表準備、および全体報告会実施予定

高1 テーマ「生命の尊厳」

★性の問題も含めて、男女の問題、人と人との関係、人と社会の関係を学ぶ

★講演会 高柳美智子氏を招く(6月14日(火)①③)

★各班による発表およびチューターの講演会(7月16日(土)①)

④
★秋以降、「いま生命を脅かすもの」というテーマでのFWを実施予定

高2 テーマ「現代を人間らしく生きるために求められることは何か」

★テーマ別フィールドワーク実施(6月24日(金)終日)

5つのテーマは、
*米国产牛肉輸入再開の是非を問う
*ゆとり教育の是非について考える
*報道の自由とプライバシー
*日本の労働者は幸せか
*リサイクルでゴミ問題は解決できるか

★研修旅行は10月に実施。(北海道・沖縄・四国・九州へ)

高3 テーマ「社会を支えている人々の生き方に学ぶ」

★分野別講演会(7月8日(金))
6つの各分野は、
マスコミ・国際関係・医療看護・農学バイオ・科学技術・心理

各分野ごとに、現役で活躍されているスペシャリストを招いて実施した。

学園の開放と 授業の公開

中学校長 近藤 正隆

昨年、中学・高等学校では新校舎が完成し、夏休み中にはこの校舎でクラブ活動や補習、学園祭準備等が例年になく活発に取り組みました。そして、これからは教育の中身を豊かにしていかなければならないと思っています。基本として、これまで行ってきたことで優れた面を継承し、不十分な面を直し、改善や改革を進めていかなければならないと考えています。社会の進歩に合わせて、教育の内容を変えると共に、生徒一人ひとりの学力を向上させなければなりません。そこで、学園では教育の中身を豊かにするために、「学園の開放と授業の公開」を進める必要があると考えています。

学園の開放ということとは、学園にあるグラウンド、アリーナ、ホールなどの施設を近隣の方や卒業生、教育関係者に利用してもらってもよいのではないのかということとです。生徒が使わないときとか、予め申し込みがあったときに、条件が合えば広く門戸を開いて、利用できるようにしたいと考えています。こうすれば、地域の方に役立つことになりそうですので、学園は閉ざされているというイメージを

持たれている方がいらしたとしたり、その方の印象を変える必要があると思っと思っています。

すでに、今年になって創立期の中学校同窓会が新校舎の見学会を兼ねて、センターエリアの大会議室で行われましたし、これからも同窓会を学内で開催したいという申し出もあります。一方、近隣の自治会である五友会では4月に総会を中高ホールで行いました。この総会には、200名近くの方が参加しました。五友会では総会を行える場所がなくて困っていましたので、大変に感謝されました。また、2月にはグラウンドで防災訓練が行われましたし、テクノエリア脇には防災倉庫も置かれています。今年の12月にはさらに大規模な防災訓練をしたいとの申し出もあります。このように、卒業生や自治会の方に利用していただきましたので、学園に対する見方が、これまでとは変化してきています。登校指導をしていると地域の方から声を掛けられるとか、学園のために一肌脱ごうという方も現れるようになっていきます。五友会から植樹のプレゼントもありました。また、講演者を紹介するのお話もあります。ここ湘南・藤沢には文化人が多く住んでいますし、同窓生にも社会で活躍してきた方も沢山います。また、社会の第一線で活躍している方もいらっしゃい

ますので、そういう方々から生徒が自分の将来に役に立つ話が聞けるような機会を作ることもできるのではないかと思っています。学園はもっと社会に開かれ、社会から学ぶようになっていなければと思っています。

一方、授業の公開ということですが、授業は学校の教育活動の中心であり、土台をなしています。生徒が学力を付けるには授業内容が分かりやすく、楽しく、取り組みやすくなっていなければなりません。学校では、生徒に分かりやすい授業を行うことを目指して研究授業などを行っています。研究授業は、教える側から見ると、生徒がどのようなところで躓いているのかを研究し、生徒の中で落ちこぼれを出さないこと、また学力を引き上げるための工夫をするために必要なことです。教員が授業を見直し、生徒にとって分かりやすい授業を目指すことは大切なことです。一方、教わる側からの目として、生徒が授業にしっかり取り組みたいのか、分かりやすい授業になっていいのかを評価することも必要なことです。神奈川県内の高校では、生徒が授業評価を実施するようになりました。授業に対して、受ける立場の生徒の意見を授業に反映させる必要性が取りあげられています。授業を公開し、保護者や授業参観者に授業を見て

いただく、要するに授業を公開する機会を設けることで、授業の問題点を見出すことで、生徒の学力を付けるような授業に変えていくことができるかと考えられます。昨年度から保護者を対象にした公開授業を年2回に増やしました。学校説明会では、中学生だけではなく、高校生の授業も自由にご覧になって下さいという話をしています。質問があれば、近くにいる教員にお話いただきたいと言っています。湘南学園が魅力ある学校になるために必要なことであります。

このように、「学校の開放と授業の公開」を進めることは、生徒一人ひとりに焦点をあて、自由で、伸び伸びとした中にも、建学の精神にある「個性豊かに、身体健全、気品高く、明朗で実力があり、社会の進歩に貢献できる有為な人間の育成」を目指すことにつながるのです。



個人情報保護への対応

個人情報に対しては、プライバシーの漏えい問題が起き、報道の自由との兼ね合いなどの指摘がありました。個人情報保護に関する法律として、平成十五年に国会で制定されました。この個人情報保護法が制定されたことを受けて、昨年四月には個人情報情報の取り扱いに対して、事業者がとらなければならないこととして、個人情報の管理者を置くことやコンピュータへ不正なアクセスができないような対策をとること等が盛り込まれている基本方針が閣議で決められました。これらを受けて、文部科学省では「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取扱いを確保するための事業者が講ずべき措置に関する指針」を個人情報保護法第八条の規定に基づいて、学校において平成十七年四月一日より適用することを各学校に指示しました。

この指針では、各学校においては生徒だけではなく、入学を予定している者（受験生）、卒業生、教職員に関する個人情報を利用するときに、不合理な取り扱いがなされないようにするための具体的な措置がなされるように求めています。学校が個人情報を利用するときは、利用される人に対して、どのような目的のために、どのような方法で利用するのかを説明する必要があります。本人から同意を得なければならぬこと等が盛り込まれています。同意を得る際に、どのような形で承諾したのかについて、確認した方法についても明確になっていなければならぬことも求められています。



たとえば、中学・高等学校では例年、大学合格者名をクラスエリアの出入り口にある掲示板に貼り出してきました。しかし、今年四月一日をもって、合格大学、学部は掲示しているものの合格者名を削除しました。これは本年四月一日から個人情報保護法が制定されたことを受けて、法律を守る上から、このような措置をとりました。今年卒業生から大学に合格したとの連絡があったときに、大学名、学部、学科を確認しましたが、掲示することの承諾を得ていません。そこで、個人情報保護法の定めるところにより、氏名の掲示を行わないことにしたのです。ただし、来春の卒業生には必要な手続をした上で、掲示をするつもりです。中には、掲示されては困るという卒業生もいると思いますが、そのような場合には大学名だけの掲示といったことも考えており、弾力的に運用していきたいと考えています。

また、先に記した文部科学大臣から示された指針を受けて、各学校では個人情報の取り扱いについて、保護者へ文面でお知らせしています。私学協会でも「情報問題対策委員会」を設置し、各学校での取り組みを研究しています。湘南学園でも、個人情報保護法に基づき個人情報の取り扱いについて、どのように取り扱うのか必要な事項をまとめ、保護者に示す準備を整えています。近日中にお知らせ致しますので、ご承知いただきたいと存じます。

一方、各学校においては、これまで取り扱ってきた個人情報について、具体的な指針を保護者の皆さんにお知らせしています。たとえば、緊急電話連絡網をとりますと、交通機関の混乱はいつ起こるか分かりませんし、台風の接近に伴う異常気象など不測の事態に備えておかねばなりません。そうしなければ、学校としての休校措置を講ずるような判断を各家庭にお知らせする必要があります。このように、休校するとか、始業時間を遅らせるような場合には、できるだけ早く家庭にお知らせしなければなりません。すでに、幼稚園でも、小学校でも、中学・高等学校でも各クラスの「緊急電話連絡網」を作成し、各家庭に配布しています。

ところが、この「緊急電話連絡網」を作成するに当たって、学校間で保護者への対応に違いがあります。幼稚園では保護者会で学校から直接、保護者の皆様にお話をしました。小学校では「学校からのお願い」という文書で緊急電話連絡網を作成しますが、「不都合な点がございましたらお申し出ください」とお知らせをしました。中学・高等学校では「緊急電話連絡網の作成にあたって」という文面で、各家庭に「承諾書」を提出していただくようにお願いをしました。このように、保護者への対応で異なった方針がとられました。また、家庭調査簿への対応についても、学校間で対応の違いがありますが、今後、これら個人情報に関する取り扱いについて、学園全体として統一のある方針にいたしますので、ご容赦願います。

(中学・高等学校 近藤正隆)

理事会便り

理事会は月一回定例理事会を開催しています。毎回出席率は90%以上でありほぼ全員の出席の状況であり、理事、監事の皆様には感謝しています。定例以外に4つの委員会と特別委員会等があり、毎週学園に出向く理事の方もいます。

それでも思う様に進展せず回を重ねざるを得ないこともあります。しかし、今の理事会は基本的な思いに差がなく一歩一歩着実に前に進んでいます。活動の一部をご報告します。

法人説明会では、事前に送付しました資料に沿って、各委員会の代表から説明いたしました。まず、平成17年度の運営基本方針は、更なる情報開示と透明性を高め全員参加型の運営を目指すことです。この方針に沿って運営し、学園の現状を理解し、一人でも多くの方が参加できるシステムを目指していきたいと考えています。

この方針を基本に「寄付行為」(学園の運営の基本となるルール)が大幅な改定になり、法人役員の選任方法も変更になります。PTA会長の選挙のように皆様の代表を

決めていくものから始まり、湘南学園の運営の中で慣例になっていったものを明文化し分かりやすくすることです。そして、皆様の意見を集約する為に参加型の運営が必要です。まずはルールを決め、運用しながらよりよきものにしていく必要があります。このことは規約委員会が中心に進めています。

そのほか、財務委員会から平成16年度の会計報告があり、財務状況は良好ですが発注業務の透明性等経費の見直しが必要です。今後小学校の建て替え、人件費の増大等を考えた場合、授業料の値上げを検討しなければなりません。総合建設委員会の中高建設の事業報告では、別途工事など追加がありました。このことは今後の学園の発展に大きな力になります。労務委員会からは、「育児休業制度の充実」「65歳までの雇用確保」の説明があり、社会の流れの中充実が求められる部分です。

今回できた教育費援助の創設は学園の長年の願いでした。まだ充分な援助とはいきませんが、他の奨学金との併用も可能なものになりました。今後の運営の中から充

実を図らなければなりません。その為に、PTAの力が欠かせないと考えており、バザー等に於て制服のリサイクルを進め、関係各位に教育費援助目的の収益にしたいだけのように要請しています。説明会の最後に不適切な会計処理問題に關しての経過を説明しました。この件は未解決ですが、今後も究明に取り組んでいきたいと思っています。

法人説明会以後、皆様に必要な報告事項として「個人情報保護法」の運営の問題と「アスベスト」があります。以前より法人は「個人情報保護」は学事の中で扱われるものが多いことから、学園長及び校長に情報管理の徹底を依頼してきました。今後は、更に「個人情報保護法」に則り、「利用目的を明確にする」「無断で目的外の利用はしない」「無断で第三者に提供しない」「情報管理を徹底する」「本人の請求により情報を開示する」の5つのポイントをもとに学校運営することをお願いしました。

「アスベスト」は、中高の新校舎建設時に於て、旧校舎解体時に充分な工法を講じ問題なく完了し、新校舎には「アスベスト」類の使

用もなく問題ありません。幼稚園と小学校は、春より専門家による調査を進めており、天井裏等の一部に「アスベスト」があり改修工事や解体工事時には注意を要しますが、通常の状態では空気中の飛散はなく問題ないとの報告です。この事はすでに県にも報告済みであり、県からも問題ない旨回答を得ています。詳細な報告に關して、後日、報告の予定です。

平成14年度より「理事会便り」を通じて、積極的に情報開示に務めてきました。平成16年度からは、情報の二元化を考えて「理事便り」から「学園便り」に活動状況を発表してきました。まだ充分ではありませんが、今後は、理事会活動の内容は「学園便り」とホームページを中心に載せていきますので、ご覧いただきますようお願いいたします。

また、情報開示と共有化を進めるため、本年度からPTA総会とは別に法人説明会を開催いたしました。残念ながら盛況とはいきませんでしたが、多くの方に参加していただき感謝しています。今後このような説明会の充実を図りたいと思います。(藪田貞美)